

愛知県指定文化財の指定について

このことについて、愛知県指定有形文化財の指定をしたいので、別紙案を添えて請議します。

平成28年1月18日提出

教育長 野村道朗

説明

この案を提出するのは、愛知県文化財保護審議会の答申（平成28年1月15日）を受け、愛知県文化財保護条例に基づき、愛知県指定有形文化財としての指定をするため必要があるからである。

(案)

愛知県指定文化財の指定

(新規指定) 有形文化財 工艺品 1件

種別	名 称	員 数	所 在 地	所 有 者
工艺品	金剛杵	1具	豊橋市多米町字赤岩山4	宗教法人赤岩寺
	金銅独鈷杵 1口			
	金銅三鈷杵 1口			
	銅五鈷杵 1口			

平成28年1月15日

愛知県教育委員会 殿

愛知県文化財保護審議会
会長 安田 徳子



愛知県指定文化財の指定について（答申）

平成27年7月31日付けで諮問のありました下記の文化財について、愛知県文化財保護審議会において審議の結果、県指定を可とする旨、答申します。

なお、指定理由については別紙のとおりです。

記

- | | |
|-------------|----------|
| 1 有形文化財 工芸品 | 金剛杵 一具 |
| | 金銅独鈷杵 一口 |
| | 金銅三鈷杵 一口 |
| | 銅五鈷杵 一口 |

指定理由書

名 称	こんごうしよ 金剛杵	1 具
	こんどうとつこしよ 金銅独鈷杵	1 口
	こんどうさんこしよ 金銅三鈷杵	1 口
	どうごこしよ 銅五鈷杵	1 口
所在の場所	豊橋市多米町字赤岩山 4	
所 蔵	赤岩寺	
法 量	(独鈷杵) 全長 20.7cm 把長 6.5cm 鬼目部径 2.3cm 鬼目径 1.2 × 0.9cm (三鈷杵) 全長 18.0cm 把長 6.9cm 鈷張 5.4cm 鬼目部径 2.4cm 鬼目径 0.8cm (五鈷杵) 全長 16.5cm 把長 5.8cm 鈷張 4.9cm 鬼目部径 2.2cm 鬼目径 1.1 × 0.7cm	

時 代 平安時代

概 要

真言密教において、修法の道具として実際に用いた金剛杵のうち、行者が自らの護身と修行を妨げる煩惱を碎破するために持する独鈷杵、三鈷杵、五鈷杵である。いずれも銅製、鑄造で、鑄出後に蓮弁きもくや鬼目などの細部を鑿たがねにより彫り出す。独鈷杵と三鈷杵には鍍金を施している。

金銅独鈷杵は、両端の鈷が長く伸び、先端が鋭く尖って、四面を削って匙面をとる。また把部中央の重つか瞼じゅうけんの鬼目を丸く大きく表し、八葉の素弁蓮弁を長く伸ばし強く反らせて、尖り気味に鎬立てて彫り出すこと、蓮弁を三条隆帯で強く縛り大きくくびれることなど、いずれをとってもすこぶる古様な特徴をみる。蓮弁の蕊しべはやや粗い短刻線で表現し、鬼目側にのみ頭を魚々子ななこたがね鑿で表している。

本独鈷杵に近い特色を備えた作例として、富山県上市町に所在する国指定史跡・黒川遺跡群の円念寺山経塚から出土した銅独鈷杵を挙げうる。蓮弁を約す三条隆帯のうち中央帯を太く表した子持ち三条帯になるという細部の特色が共通し(ただし円念寺山が断面八角形なのに対し本作は断面円形になる)、何らかの影響関係を指摘できる。本作の方が蓮弁を強く縛

っていて、彫り出しも鋭く、鈷の匙面を強くとっていることから、円念寺山独鈷杵に先行する可能性が高い。円念寺山経塚は十数基の石組経塚からなり、12世紀半ばから後半にかけて造営されたことが、陶製経筒や伴出した珠洲焼・銅鏡などの年代観からわかっている。独鈷杵はそれに先駆け、尾根上の先に地鎮の意味合いで銅磬と共に石室に埋納されていたもので、赤岩寺の本独鈷杵はそれより遡る時期、すなわち11世紀後半から12世紀前半の間に製作されたと考えられる。

金銅三鈷杵は、鈷が中鈷と脇鈷2本の計3本になるもので、脇鈷が強く張る一方で中鈷の先が太く鋭さを欠いており、独鈷杵に比べて新しい様相を示す。しかし単瞼の鬼目を大きく飛び出させ、蓮弁を二条隆帯で縛り強くくびれる点は、独鈷杵より古様な造作ともいえる。蓮弁は幅広く穏やかさをみせ、蕊は表現しない。総体に古様と新様を併せ持った作品で、平安時代後期、12世紀の製作とみなされる。

銅五鈷杵は、中鈷の周りに脇鈷4本を作り出したもので、三鈷杵よりも鈷張が弱くなり、若干新しい様相をみせる。とはいえ、重瞼の鬼目はいまだ大きく、鑄を立てた幅広の蓮弁の先を尖らすなど、古風を明瞭に残している。最も特徴的なのは、蓮弁を縛る二条隆帯に斜行条線を刻み撚紐状に表すことである。同様の隆帯をもつ五鈷杵は全国で数例知られ、様々な表現の蓮弁・鈷・鬼目と組み合う。その中で本五鈷杵は、蓮弁表現とその縛りの強さで類をみない古作とみてよく、平安時代末、12世紀に製作年代は遡ると考えていい。なお前面に黒漆を塗っているが、鍍金痕跡は確認されず、元々鍍金は施していなかったと判断される。

以上のように、3口の金剛杵はいずれも平安時代後期の製作になるが、個々の造作は異なり、異なる時期に別個に製作されたものである。しかるに、これらを収める桐箱の蓋には、以下の注目すべき墨書がある。

(表) 赤岩山

三国傳來金剛杵并金剛子念珠

錫杖一

法言寺

(裏) 一 五古杵 三古杵 獨古杵

一 木五古杵

一 金剛子念珠

右傳来之寶物弘法大師ヨリ赤岩山中興開山
杲隣上人え御附属夫ヨリ當山師資相兼者也

と墨書される。赤岩寺は、近世以前に赤岩山法言寺と号しており、「赤岩寺」の寺号は慶長八年（1603）朱印状が初見になり、明治時代になって正式に赤岩寺と称するようになった（『愛知県の地名』平凡社）。箱書によれば、これらの金剛杵3口は、少なくともそれ以前の中世・近世を通して、中興開山杲隣附属の師資相承法具として用いられてきたと判る。現在では、病気・虫封じの祈祷で独鈷杵・三鈷杵を、年に一度の炮烙加持の際に五鈷杵を個別に用いているという。

愛知県内の密教寺院に伝来した金剛杵を含む密教法具の作例として、南知多町岩屋寺の金銅一面器（重要文化財、鎌倉時代前期）や知多市法海寺蔵の金銅大檀具（市指定文化財、鎌倉時代後期）が知られるが、本作はそれらよりも大幅に古く、とくに金銅独鈷杵は日本国内諸寺院に伝来する独鈷杵の中でも古作に属する仏教工芸の重要作例といえる。また箱書を踏まえると、東三河における古代・中世の真言密教に関わる遺品としての歴史的な価値も増す。以上より、本作を愛知県指定文化財（工芸）としてふさわしいものとする。

（参考文献）

豊橋市美術博物館『普門寺・赤岩寺展』2002年

久保智康「円念寺山経塚出土の独鈷杵と磬について」『黒川遺跡群発掘調査報告書』上市町教育委員会 2005年



金銅独鈷杵



独鈷杵 鈷先



独鈷杵 把部



(参考) 円念寺山経塚出土独鈷杵

金銅三鈷杵



三鈷杵 三鈷部



三鈷杵 把部

銅五鈷杵



五鈷杵 五鈷部



五鈷杵 把部

一 五古杆 三古杆 獨古杆

一 木五古杆

一 金剛子念珠

右傳來之寶物弘法大師ヨリ赤岩山中興開山
果隣上人^ハ御附屬丈ヨリ當山師資相承者也

愛知県指定文化財件数

種 別		現在数	今回指定	計	
有形文化財	建 造 物	4 5		4 5	
	美術 工 芸 品	絵 画	9 7		9 7
		彫 刻	1 0 7		1 0 7
		工 芸 品	1 0 6	1	1 0 7
		書跡・典籍	4 0		4 0
		考古資料	2 8		2 8
		歴史資料	5		5
無 形 文 化 財		2		2	
民俗文化財	有形民俗文化財	2 5		2 5	
	無形民俗文化財	4 4		4 4	
記念物	史 跡	4 4		4 4	
	名 勝	5		5	
	天然記念物	6 1		6 1	
伝統的建造物群					
合 計		6 0 9	1	6 1 0	